TKS
TAKES·GROUP

第106期年次報告書

2011年3月1日～2012年2月29日

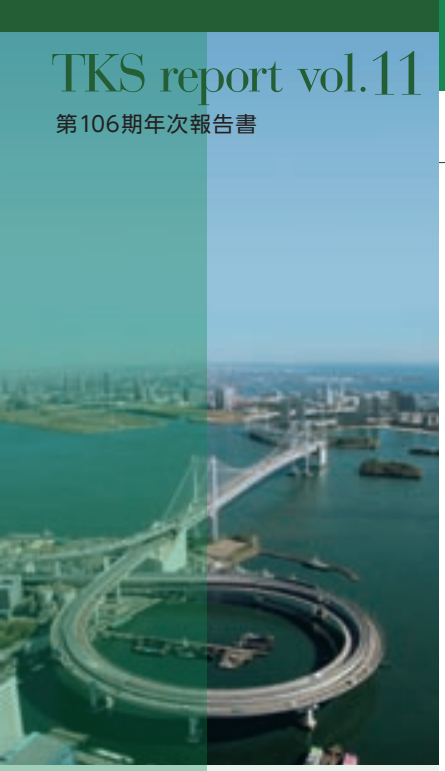
Technology and Knowledge enrich Society

TKS report vol.11

株式会社 テークスグループ
TAKES·GROUP LTD.
（旧社名 株式会社東京衡機製造所）
【東証2部上場（証券コード7719）】

TKS report vol.11

第106期年次報告書



contents

トップメッセージ／企業理念 ― 1
事業内容 ― 2
事業の概況 ― 3
トピックス ― 4
特集 Zwick社の紹介 ― 5
連結財務諸表（概要） ― 7
当期の業績 ― 9
株式情報／会社概要／役員 ― 10

トップメッセージ/企業理念

代表取締役社長
山本　勝三

平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東日本大震災から１年が経過いたしましたが、今もなお被災されている皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い被災地の復旧復興をお祈り申し上げます。

我が国経済は、震災により一時落ち込んだ個人消費が徐々に回復し、雇用環境も改善基調にあると見られていますが、欧州の政府債務問題に起因する世界経済の減速や歴史的な円高、原発事故による放射能汚染、今後のエネルギーの問題など様々な不安定要因と課題を抱え、楽観の許されない先行き不透明な厳しい状況となっております。

このような状況の下、当社グループの第106期は、国内外ともに厳しい経営環境の中で、試験機事業、住生活事業、ゆるみ止めナット事業の各事業が安定的に成長していくことができるように、グループ企業間の連携を強化するとともに、営業・サービス体制の充実、品質管理体制の強化、業務効率の更なる改善に努めました。当期の業績につきましては、いまだ充分な成果を出せず遺憾な結果となりましたが、今後も中国子会社を含めたグループ企業間の連携を深め、成長を続ける中国市場への展開を探りつつ、事業基盤の強化と信頼性向上に努める所存であります。

皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

TKS TAKES·GROUP

Technology and Knowledge enrich Society

「技術と知識で豊かな社会の実現に貢献する」

技術への挑戦と顧客からの信頼

常にお客様の立場に立ち、“価値ある商品”を提供します。

人間性の尊重

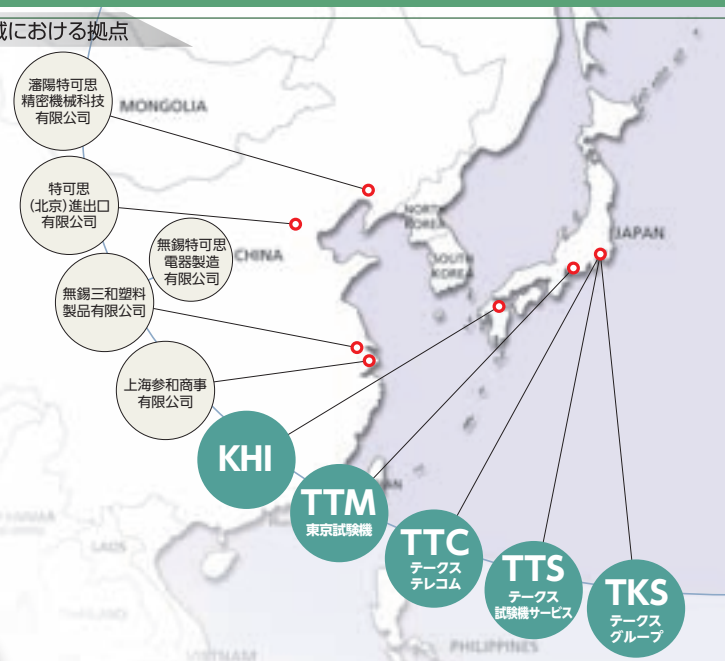
一人ひとりの“能力・意欲・創意を尊重する”とともに、やさしさと温かみのある人間集団を目指します。

地域社会への貢献

日々の誠実な活動を通じ、地域からも“信頼される企業市民”であり続けます。

事業内容

1923年創業の伝統と高い技術力を誇る試験機事業をはじめとして、
画期的なアイデアで社会に安心と安全を提供するゆるみ止めナット事業など、
技術と知識で豊かな社会の実現に貢献すべく、
様々な事業を展開しています。



試験機事業

試験機の開発・設計・生産からメンテナンス・校正まで高度な技術力によりワンストップソリューションをご提供しています。

住生活事業

中国子会社の金型成型技術を活かし暮らしやライフスタイルに関わる生活用品やアパレル関連商品等の企画開発、製造販売、各種サービスのご提供を行っています。

ゆるみ止めナット事業

グループ企業の株式会社KHIが画期的なアイデアと独自の技術で開発したゆるみ防止スプリングを内蔵したナットとナットの脱落を防止するスプリングを製造・販売しています。

事業の概況

当社グループは、中長期的な経営戦略として、**①試験機事業のブランドイメージの強化、②新規事業への積極的参入と収益力の強化、③拡大する中国市場への展開** を掲げ、以下のとおり事業を展開しております。

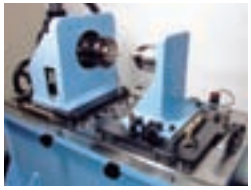
1 試験機事業のブランドイメージの強化

2 新規事業への積極的参入と収益力の強化

3 拡大する中国市場への展開

試験機事業 Testing Machine Business

当期は、材料試験機を中心に受注環境の改善が見られる中で、グループ各社の連携を強化し、標準品の拡販やメンテナンス・校正事業の拡大に努めました。その結果、子会社の業績は好調に推移しましたが、当社単体において、一部の特殊な大型案件で原価超過と売上時期のずれ込みがあったことから十分な成果は得られませんでした。今後につきましては、震災復興需要もあり経済全般的にはゆるやかな回復基調の持続が見込まれますが、円高による企業収益の悪化に伴い試験設備に係る投資の減少も懸念されています。当社は、引き続きグループ各社で連携し、市場動向を的確に把握し、安定的な収益が見込める標準品の充実と計画的拡販を進めるとともに、提携先のZwick社製品の販売を通して医療機器業界や新素材メーカーなど新たな顧客基盤の構築に努めます。


小型振り疲労試験機

Zwick 550kN
電磁共振式疲労試験機

住生活事業 Living & Lifestyle Business

当期は、震災により個人消費が落ち込む中で、一般消費者向けの健康関連商品や新たな住生活関連商材の販売など様々な取組みを行うとともに、中国子会社において中国・欧米市場向け家電製品の製造販売を開始しましたが、欧州の通貨危機や中国子会社自体の事業展開の遅れなどから十分な成果は得られませんでした。今後につきましては、国内個人消費は震災前の水準にほぼ回復してきたものの デフレ状況は継続し、世界経済の減速に伴う景気回復スピードの鈍化により当面は厳しい状況が続くものと思われますが、従来からの健康関連商品に加え公共施設等に重要の多い波形手すりの拡販に力を入れるとともに、中国子会社における家電製品事業の中国市場への展開を強化し、安定的な収益の確保に努めます。

波形手すりクネット

ミネラル還元水素水生成器

ゆるみ止めナット事業 Not Loosening Nuts Business

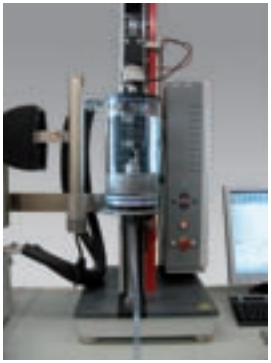
当期は、前期に引き続き、電力業界のほか、高速道路や鉄鋼、産業機械関係などに積極的な拡販活動を行い、いずれも高い製品評価を受け、中でも、ハイパーロードナットが国土交通省の新技術情報提供システム「NETIS」に登録されたことなどから着実に市場浸透を進めましたが、当期の業績への寄与までには至らず苦戦いたしました。今後につきましては、震災復興に向けた公共投資が見込まれる一方で、原材料価格の上昇や企業の設備投資抑制など先行き不透明な状況が続くものと見られますが、国内では「NETIS」への登録効果を十分に活かして積極的な営業を推進してまいります。また、販売機会の拡大を図るべく海外展開も視野に入れて安定的な取組みに努力いたします。

ハイパーロードスプリング

ハイパーロードナット

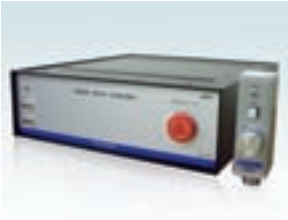
トピックス

「MEDTEC Japan 2012」への出展



平成24年4月18日から19日まで、パシフィコ横浜において、300社を超えるサプライヤーが医療機器メーカーのために集結する年に一度の展示会「MEDTEC（メドテック）Japan 2012」が開催されました。「MEDTEC Japan」は医療機器の製造・設計に関するアジア最大の展示会・セミナーで、当社は提携先のドイツの試験機メーカーZwick社の試験機を出展いたしました。Zwick社は、医療機器関係の試験機では欧州トップのシェアを持ち豊富なラインアップを有していますが、今回は人体内部で使用するインプラント等の試験に最適な環境槽を取り付けた小型のテーブルトップ形精密材料試験機を会場に展示し、実機デモンストレーションを行いました。展示会場は連日盛況で、当社ブースにもユーザーや商社の方など沢山のお客様がお越しになり、Zwick社の試験機と当社に関心を持っていただける貴重な機会となりました。

疲労試験機用ディジタルサーボコントローラ「Fine Motion」のリリース



当社は、数年に亘り開発に取り組んでいた疲労試験機用ディジタルサーボコントローラ「Fine Motion」を第106期にリリースいたしました。従前自社製のコントローラはアナログ方式でしたが、ディジタル化したことにより、パソコンソフトウェアから簡単に試験操作ができ、高速PID制御で安定した制御を行えるようになりました。また、試験状態をグラフ、ディジタルの表示で確認し、試験データをCSVファイルとして保存できるので、利便性が各段に向上いたしました。「Fine Motion」は既設の制御装置との入換えも容易にできますので、既にサーボ式疲労試験機をご使用のお客様にもお使いいただけます。当社は、この新しい自社製コントローラが疲労試験機の拡販につながるものと確信しております。

特集

Zwick社とは

ドイツの大手試験機メーカーであるZwick GmbH & Co.KG（以下「Zwick社」といいます。）は、1920年以来続く伝統と豊富な実績を誇り、グローバルな試験機のキープレーヤーとして活躍しています。Zwick社の本社があるドイツのウルムは、ミュンヘンから100km程離れた所に位置し、世界で最も高い教会尖塔のウルム大聖堂や、物理学者アインシュタインの出生地として有名な街です。ここウルムを拠点にZwick社は世界56カ国にわたるネットワークを持っており、ドイツの生産工場で生産されたハイグレードな試験機は、ヨーロッパをはじめとしてアメリカ、ブラジル、中国、シンガポールなど世界各地にある拠点から、全世界のユーザーに供給されています。

/ Subsidiaries：直轄営業所　● Partners：業務提携先

製品紹介

Zwick社は、試験機の中でも特に静的材料試験機の分野で世界一のシェアを誇っています。静的材料試験には、引張試験、圧縮試験、曲げ試験、引き裂き試験、せん断試験などがあり、金属やゴム、プラスチック、繊維、紙といった素材から、食品や医薬品の材料、包装、医療機器の電子部品など様々なモノが試験の対象となります。
Zwick社の試験機は、主にプラスチックや金属などの素材産業や、自動車、医療、食品などの産業で活用されており、例えば、医療関係では、薬の包装について安全かつ効率的に薬を取り出せる状態を追求したり、食品関係では、食品自体の硬さや弾力性などの食感を調べることにも利用されています。また、そのほか、各国の大学や官庁の研究所における学術的な基礎研究や応用研究の場でも活躍しています。

薬の包装耐性を測定
どのくらいの強さで押し出せるのかなどを調べます。

食品の硬さを測定

試験対象となるプラスチック素材
パイプなどの硬いものからクッションなどに使われる柔らかいものまで様々なプラスチックを試験できます。

テークスグループとの業務提携

試験機の分野においても、試験方法やデータ評価手法の国際標準化が進められており、世界の最先端技術を常に把握することが必須となっています。テークスグループは世界を視野に入れた事業展開を行うため、2005年9月にZwick社と同社製品の日本国内における販売に関し業務提携を結び、総合的な試験機メーカーとして、日本のお客様の様々なご要望にお応えするとともに、世界に通じるZwick社の技術とノウハウを吸収し製品開発やサービスの向上に活かしています。

連結財務諸表（概要）（単位：百万円、単位未満切捨て）

連結貸借対照表

科　目	前期 2011年2月28日現在	当期 2012年2月29日現在
資産の部		
流動資産	3,552	3,547
現金及び預金	1,086	1,072
受取手形及び売掛金	1,183	1,225
たな卸資産 1	856	1,103
繰延税金資産	5	6
その他 2	432	167
貸倒引当金	△ 11	△ 29
固定資産	2,684	1,931
有形固定資産 3	2,285	1,544
無形固定資産	240	245
繰延税金資産	20	15
投資その他の資産	442	404
貸倒引当金	△ 302	△ 277
繰延資産	0	—
資産合計	6,237	5,479
負債の部		
流動負債	1,476	1,962
固定負債	1,786	1,330
負債合計 4	3,263	3,292
純資産の部		
株主資本 5	2,298	1,862
※その他の包括利益累計額 6	657	324
新株予約権 7	18	—
少数株主持分	0	—
純資産合計	2,973	2,186
負債純資産合計	6,237	5,479

（※）当連結会計年度より、科目名が変更となっております。なお、前連結会計年度は「評価・換算差額等」としておりました。

Point1 たな卸資産

主に㈱KHIの商品、当社単体の仕掛品、中国子会社の原材料の増加により前連結会計年度末に比べ2億47百万円増加しております。

Point2 その他

中国子会社における収用補償金の回収などにより、前連結会計年度末に比べ2億64百万円減少しております。

Point3 有形固定資産

中国子会社において機械設備などの設備投資が45百万円あったものの、当社単体における減損損失6億71百万円や減価償却費1億4百万円などにより前連結会計年度末に比べ7億41百万円減少しております。

Point4 負債合計

主に仕入増に伴い買掛債務が2億88百万円増加し、土地の減損に伴い再評価に係る繰延税金負債が2億62百万円減少しております。

Point5 株主資本

主に当期純損失により前連結会計年度末に比べ4億35百万円減少しております。（「連結株主資本等変動計算書」参照）

Point6 その他の包括利益累計額

主に土地の減損に伴う土地再評価差額金の減少により前連結会計年度末に比べ3億32百万円減少しております。（「連結株主資本等変動計算書」参照）

Point7 新株予約権

平成21年第1回新株予約権の失効により前連結会計年度末に比べ18百万円減少しております。

連結損益計算書

科　目	前期 2010年3月1日～2011年2月28日	当期 2011年3月1日～2012年2月29日
売上高 8	3,815	4,538
売上原価	2,914	3,584
売上総利益 9	901	953
販売費及び一般管理費	1,263	1,217
営業損失（△）	△ 361	△ 263
営業外収益	52	35
営業外費用	164	93
経常損失（△）	△ 473	△ 320
特別利益 10	521	20
特別損失 11	109	692
税金等調整前当期純損失（△）	△ 61	△ 993
※少数株主損益調整前当期純損失（△）	—	△ 783
当期純損失（△） 12	△ 90	△ 783

（※）当連結会計年度より、「少数株主損益調整前当期純損失」の科目を表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

科　目	前期 2010年3月1日～2011年2月28日	当期 2011年3月1日～2012年2月29日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 341	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 95	△ 42
財務活動によるキャッシュ・フロー	236	26
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 13	△ 1
現金及び現金同等物の増加額又は減少額	△ 214	△ 10
現金及び現金同等物の期首残高	1,206	992
現金及び現金同等物の期末残高	992	981

Point8 売上高

売上高は前連結会計年度に比べ7億22百万円増加しております。特に試験機事業は東日本大震災による需要の回復遅れがあるものの、前連結会計年度に比べ4億35百万円の増加と持ち直しがみられます。なお、住生活事業とゆるみ止めナット事業もそれぞれ増加しております。

Point9 売上総利益

売上総利益は前連結会計年度に比べ51百万円増加しておりますが、売上高の増加割合を大きく下回っております。これは主に試験機事業における一部の特殊大型案件の原価超過によるものです。また、売上総利益率については2.6ポイント悪化し、21.0%となっております。

Point10 特別利益

前連結会計年度に比べ5億1百万円減少しております。これは主に前連結会計年度は収用補償金4億93百万円の計上があったことによるものです。

Point11 特別損失

当社単体の試験機事業における減損損失の計上が主であり、前連結会計年度に比べ5億82百万円増加しております。

Point12 当期純損失

売上高は増加するも原価悪化や減損損失の計上などがあり、前連結会計年度に比べ6億92百万円悪化しております。

連結株主資本等変動計算書（2011年3月1日～2012年2月29日）

（単位：千円）

	株主資本					※その他の包括利益累計額				新株予約権	少数株主持分	純資産額合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
2011年2月28日残高	2,713,552	200,233	△ 612,091	△ 3,610	2,298,083	42	601,222	55,911	657,176	18,000	633	2,973,893
連結会計年度中の変動額												
土地再評価差額金の取崩			347,311		347,311							347,311
自己株式の取得				△ 15	△ 15							△ 15
当期純損失			△ 783,083		△ 783,083							△ 783,083
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						△ 29	△ 322,351	△ 10,113	△ 332,493	△ 18,000	△ 633	△ 351,127
連結会計年度中の変動額合計			△ 435,772	△ 15	△ 435,787	△ 29	△ 322,351	△ 10,113	△ 332,493	△ 18,000	△ 633	△ 786,914
2012年2月29日残高	2,713,552	200,233	△ 1,047,863	△ 3,626	1,862,295	13	278,871	45,798	324,682	—	—	2,186,978

（※）当連結会計年度より、科目名が変更となっております。なお、前連結会計年度は「評価・換算差額等」としておりました。

当期の業績

当連結会計年度（平成23年３月１日～平成24年２月29日）における我が国経済は、世界金融危機後のゆるやかな景気持直し局面の中で昨年３月11日に東日本大震災が発生し、電力供給不足等で一時的に生産活動が停滞し、また、原発事故の放射能汚染で大きなダメージを受けました。さらに、欧州の通貨危機や歴史的な円高、タイの洪水被害などが重なり、製造業を中心とする輸出産業に大きな影響を与え、予断を許さない状況が続いております。

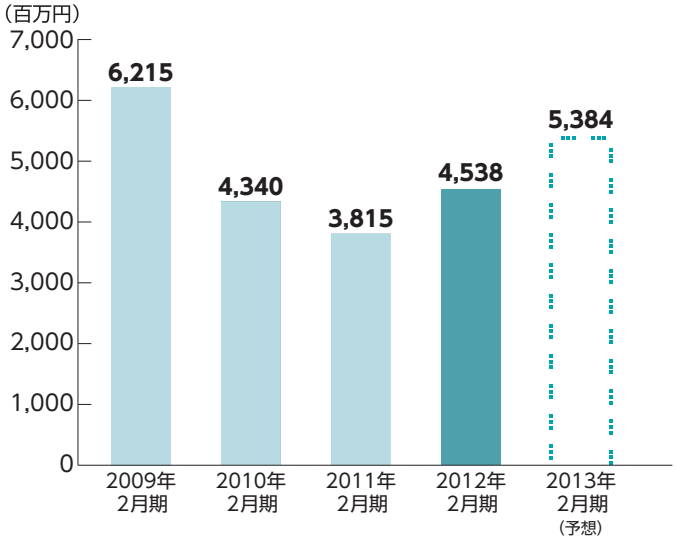
このような状況の下、当社グループは、試験機事業では、グループ各社の連携を強化し、標準品の拡販やメンテナンス・校正事業の拡大に努めた結果、材料試験機を中心に受注の改善が定着し、子会社の業績は好調に推移しましたが、当社単体においては、受注から売上まで相当の期間を要することから当年度の業績には直接反映されず、また、一部の特殊な大型案件で原価超過と売上時期のずれ込みもあって、十分な業績回復には至りませんでした。次に、住生活事業では、一般消費者向けの健康関連商品や新たな住生活関連商材の販売など様々な取組みを行うとともに、中国子会社において中国国内や欧米をターゲットとして家電製品の製造・販売にも取り組みましたが、欧州の通貨危機や中国子会社自体の事業展開の遅れなどから十分な成果は得られませんでした。また、ゆるみ止めナット事業では、電力業界のほか、高速道路や鉄鋼、産業機械関係などに積極的な拡販活動を継続し、いずれも高い製品評価を受け、中でも、ハイパーロードナットが国土交通省の新技術情報提供システム「NETIS」に登録されたことなどから着実に市場浸透を進めましたが、当年度の業績への寄与までには至らず苦戦いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は4,538百万円（前年同期比18.9％増）となり、営業損失は263百万円（前年同期は営業損失361百万円）、経常損失は320百万円（前年同期は経常損失473百万円）、当期純損失は783百万円（前年同期は当期純損失90百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

事業の名称	売上高	営業利益
試験機事業	2,351百万円	124百万円
住生活事業	1,676百万円	△ 20百万円
ゆるみ止めナット事業	509百万円	△ 96百万円
その他	—	△ 10百万円
調整額（管理部門費用等）	—	△ 259百万円

売上高の推移



連結業績ハイライト（単位：百万円、単位未満切捨て）

科目	2010年 2月期	2011年 2月期	2012年 2月期
売上高	4,340	3,815	4,538
営業利益	△157	△361	△263
経常利益	△231	△473	△320
当期純利益	△460	△90	△783
1株当たり当期純利益（円）	△6.45	△1.26	△10.98
純資産	3,147	2,973	2,186
1株当たり純資産（円）	43.20	41.44	30.66

株式情報（2012年2月29日現在）

株式の概況

発行可能株式総数	260,000,000株
発行済株式の総数※	71,337,916株
株主数	3,548名

※「発行済株式の総数」には自己株式23,910株を含みます。

大株主（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
株式会社A.Cホールディングス	27,379千株	38.39%
オカザキファンド投資事業有限責任組合	5,242千株	7.35%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	2,016千株	2.82%
日本証券金融株式会社	1,779千株	2.49%
岡崎 由雄	1,050千株	1.47%
河野 博晶	1,006千株	1.41%
株式会社サンエーコーポレーション	935千株	1.31%
株式会社グッドワン	721千株	1.01%
堀澤 始	486千株	0.68%
宝天大同	448千株	0.62%

※持株比率の算定においては、発行済株式より自己株式（23,910株）を控除しております。

会社概要（2012年2月29日現在）

商号	株式会社テークスグループ
本社所在地	神奈川県相模原市緑区三井315番地
登記上の本店	東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
創立	1923年（大正12年）3月20日
資本金	27億1,355万2,013円
従業員数	89名（連結548名）
事業内容	試験・計測・計量機器、ロードセル、圧力検出器、歪ゲージ、トルク検出器等のセンサー類その他の関連機器の製造・販売、受託試験、プラスチック成型品、木工品、射出成型用金型の製造・輸入・販売、健康関連商品の販売、不動産の売買、ゆるみ止めナットの販売
建設業許可	国土交通大臣許可（般-20）第17917号
宅地建物取引業者免許	東京都知事（1）第91405号

役員（2012年5月24日現在）

代表取締役社長 （兼 企画統制室長）	山本 勝三
取締役副社長 （兼 企画統制室参与 兼 最高技術責任者 兼 試験機技術部門担当兼デバイス事業担当執行役員）	藤井 勉
取締役副社長 （兼 企画統制室参与 兼 管理部門担当執行役員）	平岡 昭一
取締役 （兼 住生活事業担当執行役員）	藤澤 賢憲
取締役相談役	岡崎 由雄
取締役 （KHI事業担当）	添田 正道
取締役 （兼 試験機製造部門担当執行役員）	佐藤 良則
常勤監査役 （社外監査役）	細野 幸男
監査役 （社外監査役）	管野 善則
監査役 （社外監査役）	髙吉 廣美
執行役員 （試験機営業部門担当）	川松 満

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
期末配当金受領株主確定日	2月末日
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同上連絡先	三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 0120-176-417（通話料無料）
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同上連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 0120-232-711（通話料無料）
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第二部
公告の方法	電子公告（掲載 URL http://www.tksnet.co.jp） （ただし、電子公告によることができない事故その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

1．株主様の住所変更、単元未満株式買取・買増請求その他の各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

2．特別口座に記録された株式に関するお手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行株式会社）にお問い合わせください。同行全国各支店でもお取次ぎいたします。

テークスグループホームページ
http://www.tksnet.co.jp/

IR情報はこちらからご覧いただけます。

ロゴマークについて

“技術力”“独創性”“人”“伝統”全てをリンクさせ、一丸となって新しい時代へ向かうテークスグループの姿を表現するため、「青」「赤」「緑」「紫」を“光のイメージ”に展開しています。

青：テークスグループの技術力
真っ青な海や空を眺めていると不思議と心が安らぎ、ポジティブな気持ちになります。そのことから「青」は冷静、自立、希望を象徴し、また知性、誠実のイメージをもつ色といわれています。次代のシーズを冷静に判断し、お客様のご要望に的確に応えるため、あらゆる知性を集約した、テークスグループの“技術力”を「青」で表現しています。

赤：テークスグループの独創性
万物に恵みを与えてくれる太陽の色「赤」は、外へと向かうパワーを感じさせます。情熱、エネルギー、ダイナミック、活動的なイメージがあり、幸運を招く色としても知られています。新しい次代へ挑むエネルギーとなる、テークスグループの“独創性”を「赤」で表現しています。

緑：テークスグループの人
自然の美しさや木々の芽吹きを連想させる「緑」は、すがすがしさ、新鮮さ、新しい可能性、生命力を象徴する色です。いつまでも新鮮で、新しい可能性に満ち、時代を乗り越える生命力を備えたテークスグループの財産“人”を「緑」で表現しています。

紫：テークスグループの伝統
染料の入手が困難なこと、染め出す技術が高度なことより、古来から「紫」は高貴な色として崇められ、また伝統、古典のイメージをもつ色です。1923年創業という長い歴史を誇る、テークスグループの“伝統”を「紫」で表現しています。

株式会社 テークスグループ
TAKES・GROUP LTD.
〒252－0151　神奈川県相模原市緑区三井315番地
TEL 042－780－1650　FAX 042－784－6094

VEGETABLE OIL INK